

活動報告書

報告者氏名：水野 吉丈 高橋 尚子 所属：東京都立江戸川特別支援学校 記録日：平成 26 年 2 月 14 日

【対象児（群）の情報】

- ・ 学年 中学部 3 年
- ・ 障害名 脳性麻痺 知的障害
- ・ 障害と困難の内容

四肢体幹機能障害で座位の保持が難しい。車いすで姿勢を安定させることも困難である。アテトーゼも強く、上肢の操作も困難である。発声はあるが、音声言語でのコミュニケーションは難しい。保護者や担任、関係を作った教員には、表情や発声などで簡単な要求を伝えることができる。支援者が、場面に応じて本生徒の要求しそうな言葉を例示することで、本生徒が表情や発声で選択肢を伝えるという方法である。昨年度の「魔法のじゅうたんプロジェクト」では、トーキングエイド HD を活用して、本生徒と相談しながら言葉を綴り、それを朝の学級の集いで発表する取り組みを行った。周囲から本生徒の発言のリアクションが出たことから、より積極的に言葉を綴る活動に取り組む姿勢が現れてきた。

しかし、支援者側の関わりによる受け身の発語にとどまる場所もあった。

今まで表情や発声で自分の意志が伝わることは理解しているので、食べる物や、生活上必要なことについて自分の求めることは、ほぼ伝えることができている。より高次の意思や要求を表現できるようになることが今後の課題であると考えている。

【活動目的】

- ・ 当初のねらい
本生徒が VOCA(DropTalkHD) になれ、VOCA を使ったコミュニケーションで様々なことを表現できるようになる。
- ・ 実施期間 平成 25 年 4 月～平成 26 年 3 月
- ・ 実施者 高橋尚子(中学部教員)
- ・ 実施者と対象児の関係 学級担任であり、学習グループでの指導も担当している。

【活動内容と対象児（群）の変化】

- ・対象児（群）の事前の状況
トーキングエイドに家で入力内容は、主に家であったことや食事のメニューだった。
- ・活動の具体的内容
コミュニケーション場面での活用や、劇などの発表場面での活用。
DropTalkHD を利用した本人の意思決定の明確化の取り組み。
- ・対象児（群）の事後の変化
トーキングエイドに家で入力してくる内容が変化してきた。

【報告者の気づきとエビデンス】

- ・主観的気づき
トーキングエイドを使用してやりとりすることで、コミュニケーションの楽しさを体験することができた。
- ・エビデンス（具体的数値など）
家から書いてくる内容が、日記などの経験的内容から、友達や教員への質問、伝えたいことに変化してきた。
より、高度なコミュニケーションをとりたい気持ちが育ってきていることが明らかになった。
- ・その他エピソード（画像などを含めて）
DropTalkHD を利用して、自分の選択する気持ちを表現する取り組みを行った。家庭では余暇の過ごし方や、見たいDVD、絵本を選ぶことに、学校では帰りの会での発表に活用し、今日がんばったことを伝える中で教科を伝えることに活用した。今後も継続していく予定である。
上肢に強いアテトーゼがあるので、今後も使用方法については工夫が必要である。



↑ 帰りの会で、今日あったこと指す様子